CLOSE UP クローズアップ

“宗右衛門町方式”で粋なまち再生

宗右衛門町夏祭り「地域合同消防訓練」にて（2008年7月）

「食文化と酒文化が花開いている街になったらええなぁ」。未来の大阪・ミナミの宗右衛門町に思いを馳せる、宗右衛門町商店街振興組合の岡本敏嗣理事長（53）。単なる夢物語ではない。街の風紀が乱れ衰退の一途にあった15年程前から、街全体で具体的な施策に取り組み、夢の実現に着実に近づいている。

◇街への恩返し◇

父親が宗右衛門町で創業した和菓子屋の2代目。戦後まもなくの創業当時、街は格式の高い花街で上方文化の発信地だった。「料亭や芝居小屋があり、文化度の高いこの土地に合った和菓子を追求した結果、高級菓子屋として基盤を築けた」

「街に育てられた」という思いを強く持ち、「これまでの恩返しをしたい」と地域活動に足を踏み入れる。2003年には宗右衛門町商店会の会長に就任。翌年に設立した「宗右衛門町活性化協議会」が大阪市から「まちづくり推進団体」の認定を受け、本格的なまちづくりに取り組み始めた。

本腰を入れざるを得ないほど、当時の街は危機的な状況にあった。「ここで育った人たちがまだ残っている今が最後のタイミング。この機を逃したらもう無理だと思った」。組織的かつ継続的に取り組むために、2007年には振興組合を設立した。

◇宗右衛門町方式で異例の改革◇

活動の柱の一つ、防犯活動には振興組合の前身の商店会設立当時（1995年）から取り組んでいる。「防犯は安心安全なまちづくりのベース。目的ではなくて手段」と各種パトロールを展開。近年は近隣の商店街や大阪府警南警察署などとも連携し、ミナミ全体をみんなで守ろうという意識が高まっている。

また、環境浄化の推進にも力を入れ、路上に乱立する置き看板の撤去に着手。「役員や理事は一軒一軒お願いに回り、段階を踏んで完全に無くしていった。それはもう大変だった。街を良くしたいという思いを商店主たちと共有できたからこそなし得た」。繁華街では不可能だと言われる中での実行・実現に、“宗右衛門町方式”と注目を集めた。

「単に行政に要望するのではなく、われわれのできることを一生懸命やった上でお願いするという姿勢を貫いている。看板撤去の成果によって、行政にも本気で街の整備に取り組んでいると認めてもらえた」。結果、大阪市による宗右衛門町通りの電線地中化、道路美装化が決定したのだ。

◇川辺で食と酒の楽しめる街◇

2008年から始まった、電線地中化、石畳の道の復活などの道路美装の完成に合わせて、「宗右衛門町リファイン23プロジェクト」（“23”は完成予定の平成23年度を表す）を策定。コンセプトとして、「食と酒、川のある街・宗右衛門町」（粋なもてなし、趣向の味で、人を潤す大人の街に）と掲げる。

プロジェクトの一環で、「地区計画」「景観協定」などのルールづくりも推し進める。「ミナミは“何でもありがいい”と言われてきたが、健全な店が健全に繁栄するためにはある程度ルール化する必要がある」。自然と秩序が守られていた昔とは状況が違う。とはいえ、「あんまりむちゃくちゃはやめませんか」と語りかけるような、これも“宗右衛門町方式”のルールだ。

各種会議や活動の参加に、理事や役員らは積極的である。「何とかしたいという気持ちは皆強い。街に愛着を持つ人がまだまだ残っていると心強く思う」。皆の思いを集結し“ちょっと粋な街”の再生に、長期戦の覚悟で臨んでいる。

（文・江中咲紀／表紙写真・高島悠介）

プロフィール

宗右衛門町商店街振興組合理事長

岡本（おかもと） 敏嗣（としつぐ）さん

1955年大阪生まれ。東京大学理学部卒業後、父親が1948年に宗右衛門町で創業した和菓子屋「福壽堂秀信」に就職。1989年から代表取締役社長。宗右衛門町商店街振興組合理事長、ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長を兼任。